

乳癌 14

対象疾患: 乳癌(転移・再発)

## 【0214】GEM+PTX 療法

## 【投与スケジュール】1 コース=21 日

1 コース

一般名	商品名	略号	投与量	1W	2W	3W
パクリタキセル	パクリタキセル	PTX、PAC TXL	175mg/m <sup>2</sup>	↓ Day1		
ゲムシタビン	ジェムザール	GEM	1250mg/m <sup>2</sup>	↓ Day1	↓ Day8	

## 【投与日のタイムテーブル】

滴下順	薬品名	用量	投与時間
<b>Day1</b>			
内服	レスタミン錠 10mg	5 錠	①投与中内服
①	デカドロン 3.3 mg/1mL※	5A	15 分
	ファモチジン 20 mg/20mL	1A	
	生理食塩液 50mL	1 本	
②	グラニセトロンバック 3 mg/100mL	1 本	30 分
③	パクリタキセル	175mg/m <sup>2</sup>	3 時間
	生理食塩液 250mL	1 本	
④	ジェムザール	1250mg/m <sup>2</sup>	30 分
	生理食塩液 100mL	1 本	
⑤	生理食塩液 50mL	1 本	ルートリンス
<b>Day8</b>			
①	グラニセトロンバック 3mg/100mL	1 本	30 分
	デカドロン 3.3 mg/1mL	2A	
②	ジェムザール	1250mg/m <sup>2</sup>	30 分
	生理食塩液 100mL	1 本	
③	生理食塩液 50mL	1 本	ルートリンス

※デカドロンは過敏症状がなければ半量ずつ(最低 1mg まで)減量可

### <パクリタキセル>

インラインフィルター(0.22ミクロン以下)を使用すること

DEHPフリー(もしくはPVCフリー)の点滴セットを使用すること

輸液ポンプを使用する場合は、濾過網の組み込まれた輸液セットは使用しないこと

催吐性	パクリタキセル:軽度リスク ジェムザール:軽度リスク
組織傷害性	パクリタキセル:壊死性 ジェムザール:炎症性抗がん剤
代表的副作用	パクリタキセル >10%…骨髄抑制、末梢神経障害、関節痛、筋肉痛、悪心、嘔吐、脱毛、皮疹、爪の変化 <1%…アナフィラキシー、間質性肺炎
	ジェムザール >10%…骨髄抑制、悪心、食欲不振、肝機能障害、倦怠感、皮疹 1~10%…間質性肺炎、血管炎

#### 【注意事項】

(ジェムザール)

- 投与時間 30分を遵守する。(60分以上の投与時間で毒性の頻度と程度が増強したとの報告があるため)

(パクリタキセル)

#### ☆パクリタキセルのアルコール量

(例)パクリタキセル 100mg 投与の場合

⇒ビール換算で約 168mL (350mL 缶の半分くらい)

- 過飽和状態にあるためパクリタキセルが結晶として析出する可能性があるため、0.22ミクロン以下のメンブレンフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること
- 点滴用セット等で可塑剤として DEHP を含有しているものの使用を避けること。もしくは PVC フリーの輸液セットを使用すること
- 輸液ポンプを使用して投与する場合は、チューブ内にろ過網(面積の小さなフィルター)が組み込まれた輸液セットは使用しないこと(まれにポンプの物理的的刺激により析出するパクリタキセルの結晶がろ過網を詰まらせ、ポンプの停止が起こることがあるため)
- 本剤は非水性注射液であり、輸液で希釈された薬液は表面張力が低下し、1滴の大きさが生理食塩液などに比べ小さくなるため、輸液セットあるいは輸液ポンプを用いる場合は以下の点に十分注意すること。
  - 自然落下方式で投与する場合、輸液セットに表示されている滴数で投与速度を設定すると、目標に比べ投与速度が低下するので、滴数を増加させて設定する等の調整が必要である。
  - 滴下制御型輸液ポンプを用いる場合は、流量を増加させて設定する等の調整が必要である。
- 前投薬:本剤投与による重篤な過敏症状の発現を防止するため、必ず前投薬(H1 阻害薬、H2 阻害薬、デキサメタゾン)を行うこと